

以上の結果より、MPRラットにおけるムコ多糖症の原因遺伝子はアリスルファターゼB遺伝子における突然変異であることが結論づけられた。

平成6年度理事会報告

第28回岡山実験動物研究会

平成6年12月2日（金）午後1時からメルパルクOKAYAMA郵便貯金会館において、岡山県新技術振興財団との共催で開催された。

はじめに会長の栗本雅司所長（株）林原生物化学研究所・藤崎研究所）から開会の御挨拶があり、その後、特別講演に移った。

特別講演Ⅰは「実験動物とワクチンの品質管理」と題して（財）阪大微研会の小野耕一先生が講演された。この司会は内藤一郎先生（重井医学研究所）が担当された。

特別講演Ⅱは「遺伝子ノックアウトマウス作製と免疫応答解析への利用」と題して岡山大学工学部の高井俊行先生が講演された。この司会は片山泰人先生（岡山大・医学部）が担当された。

講演終了後、休憩をとり、事務局から会務報告があった。その内容を要約すると、①平成6年度の活動報告（第27回、第28回研究会の開催、会報11号の発行、理事会・常務理事会の開催）について、②会則第7条による役員を選任について（本文49頁に岡山実験動物研究会役員名を掲載）、③平成6年度（1月1日～11月30日）の会計中間報告について、④第29回の研究会の開催予定について、⑤研究会報（第12号）の発行について、などであった。

会務報告後、招待講演に移った。招待講演は「ケージサイズについて考える」と題して新潟大学医学部の佐藤徳光先生が講演された。この司会は倉林讓先生（岡山大・医学部）が担当された。

この会には80名を越える参加者があり、盛会のうちに終了した。会終了後、懇親会が同会場で開かれ、名誉会員の矢部芳郎先生、田坂賢二先生も出席された。先生方にも御挨拶を頂き、同研究会の今後の発展を誓い合った。

特別講演、招待講演の要旨は本文8～25頁に掲載していますので、御参照下さい。

平成6年度の理事会は2回行われた。第1回目は6月25日（土）午後1時30分から50分まで岡山大学教育学部で、第2回目は12月（金）12時30分から50分までメルパルクOKAYAMA郵便貯金会館で行われた。

第1回理事会

①平成5年度の活動報告：2回（第25回、第26回）の研究会の開催、第10号の研究会報の発行、常務理事会の開催（2回）、関西実験動物研究会10周年記念大会での話題提供の報告があった。

②研究会報11号の発行：7月中に発行される予定であることが報告された。

③平成5年度の会計報告：平成5年度（1月1日～12月31日）の収入、支出、残高の状況について報告がなされ、中永征太郎先生、河本泰生先生の監事によって5月17日に会計監査がなされた。

④平成6年度の活動計画：第27回の研究会は本日岡山大学教育学部において、また第28回は12月上旬にいずれも岡山県新技術振興財団との共催で開催する予定であることが報告され、具体的な開催日時、内容などについては後日の常務理事会で検討することが了承された。

第2回理事会

①平成6年度の活動状況：第27回の研究会が岡山大学教育学部で開催され、第28回の研究会が本日（12月2日）いずれも岡山県新技術振興財団との共催で開催されること、第11号の研究会報が発行され、会員に送付されたことが報告された。

②平成6年度会計の中間報告：平成6年1月1日から11月30日までの収入、支出、残高の状況について中間報告があった。

③会則第7条に基づいて役員を選任が行われ、了承された。会長には栗本雅司所長（株）林原生物化学研究所・藤崎研究所）が再選された。理事は従来のメンバーに加えて新たに新井成之氏（株）林原生物化学研究所・藤崎研究所）と国枝哲夫氏（岡山大・農学部）が選出され、常務理事として活躍して頂くことになった。

④次回（第29回）の研究会の開催：平成7年6月頃に会員持ち回りの会場で会員による一般講演を中心に開催することが討議された。

⑤第12号の研究会報は平成7年に発行する予定。